

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

October 10  
2020

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター  
1957年7月17日第三種郵便物認可  
2020年10月1日発行(毎月一回発行)第754号

● 出会い・本・人

書物に魅せられて 吉川直美

● 特集「臨床神学」を学ぶには

この三冊! 鳥居雅志

● 本・批評と紹介

E・シュタウファー著/川島貞雄訳

キリストとローマ皇帝たち 島 創平

森島 豊著 抵抗権と人権の思想史 芦名定道

任 哲完著/倉橋葉子訳 信仰と人生 きどのりこ

新教出版社編集部編 現代のバベルの塔 福嶋 揚

フスト・ゴンサレス著/石田 学、岩橋常久訳

キリスト教史下巻 増補新版 柳下明子

ジャン・カルヴァン著/アジア・カシルヴァン学会編訳

恵みによって 井ノ川 勝

フリッツ・ブリー著/岡田 聡訳 実存の神学 笠井恵一

既刊案内

書店案内

# 平静の祈り

ラインホルド・ニーバーと  
その時代

エリザベス・シフトン著 / 穂田信子訳 / 安酸敏眞解説

9月25日

現実を受け入れる平静さ、変革する勇氣、識別する知恵を求めた有名な祈りは、戦時下いかなる状況で生まれたのか。

◆ A5判・本体4500円

# デイズニー変形譚研究

宮平 望著

世俗化された福音への信仰

『白雪』から『アナ雪』までのデイズニー映像代表作を完全網羅した研究！ 聖俗の狭間にある感動の秘密に迫る。

◆ 四六判・本体2000円

# 次世代への提言！

神学生交流プログラム講演記録集

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

次の教会を担う人たちへ

ユニークな神学生交流の場で語られた至言の数々。荒井献、小林哲夫、本田哲郎、関田寛雄、杉野榮、青野太潮、森一弘、並木浩一、石田学、神田健次、戒能信生。

◆ A5判・本体2100円

# 主イエスの言葉と働き

ヴァルター・リユティ著 / 野崎卓道訳

ルカ福音書1章から

スイスの名説教者が第二次大戦後の混乱期に語りかけた珠玉の講解説教61編。

10章による講解説教

◆ 四六判・本体2300円

# キリスト教史 下巻 増補新版

宗教改革から現代まで J・ゴンサレス著 / 石田学・岩橋常久訳

定評ある通史の増補新版が待望の邦訳！ 2010年の原書・増補新版では2章の追加と改訂がなされた。

◆ A5判・本体5900円



オンデマンド復刊！

\*ご注文より納本まで3週間ほど要します。

## ▶ カール・バルトの生涯 改訂新版

E. ブッシュ著 / 小川圭治訳 ◆ A5判・本体14000円  
生涯と神学の展開を、最晩年の助手が描き切った大作。



## ▶ 組織神学 第一巻

P. ティリッヒ著 / 谷口美智雄訳 ◆ A5判・本体9000円

「相関の方法」を提示、第1部「理性と啓示」、第2部「存在と神」。





## 書物に魅せられて

吉川直美

思い返せば呆れるほど書物を愛してきました。「読む」ことはもちろん、装幀、書体、余白、手触り、匂い、佇まい——その細部に至るまで、書物という存在は私を虜にしてくれたのです。幼い頃、父から与えられた児童文学全集の「見本本」のせいかもしれません。初めの数ページだけが印刷され残りは真っ白で、何度読み返しても私は物語の先を知ることができませんでした。そこに記されるべきことはを探し求めていた気がします。

毎日のように図書館や書店、古書店に入り浸って、ジャンルを問わず、新しい書物との出会いに胸を高鳴らせました。目録や本誌のような広報誌、さらには業界紙まで購読して、矯めつた眇めつまが、隅から隅まで舐めるように読み尽くして、知の迷宮への扉を探し求めたのです。

好きが高じて編集者となり、さらに高じてヨーロッパの製本工芸芸術の習得にまで手を伸ばしました。著者の表現している世界観を汲み取り、人生を賭けてそれに相応しい最上の器を差

し出すことで、神の真理の一端に触れることができるのではないかと、本気でそう思っていたからです。しかし私の人生は、真理の周縁を虚しく回り、むしろ中心から遠ざかるばかりでした。疲れ果てた末にたどり着いたのは、一冊の小さな聖書でした。美しい写本や、至高の芸術品のような聖書も目にしてきましたが、その何の変哲も意匠もない聖書が、神のことばの住まい、世界と真理の器であったのです。こうしてようやく、本への偏愛も、狂おしいまでの真理への憧れも、相応しい注ぎどころを与えられました。それはまた、私の人生という書物の続きを書き込み、一冊の書物に仕立ててくださる最高の製本家との出会いでもありました。

やがて、私自身は視力も理解力も気力も衰え、本を読むことができなくなつたとしても、私という書物は最後のページまで書き記され、神が閉じて書棚に収めてくれることでしょう。

(よしかわ・なおみ 〓 シオンの群教会主任牧師、聖契神学校教師)



# 「臨床神学」を学ぶには ▼この三冊！

鳥居雅志（とりい・まさし）立教大学ほか非常勤講師

「臨床神学」という言葉は、あまり耳慣れない言葉かもしれませんが。「臨床」という言葉を聞いて先ず思い浮ぶのは、医療において患者さんの病床に行き治療・ケアをするということなのではないかと思えます。

ですが、この「臨床」という言葉は現在さまざまなおところで語られ、その扱われる範囲は医療的・医学的な出来事にとどまっていません。例えば哲学者中村雄二郎氏は『臨床の知とは何か』において、臨床の知を、狭い意味での

医療的・医学的なものとしてではなく、「個々の場合や場所を重視して深層の現実にかかわり、世界や他者がわれわれに示す隠された意味を相互行為のうちに取り、捉える働きをする」ものとして扱っています（その上で医療や医学についても論じています）。

哲学者鷺田清一氏は『聴く』こと「の力」において、これまで語りすぎてきた哲学に対して、苦しんでいる人に向き合い他者にひらかれた「聴く」としての哲学を「臨床哲学」として

提唱しています。そして日本基督教団の牧師であった有馬式夫氏は「牧会カウンセリング入門」で、牧会者は「語る者」であろうとするばかりに「聴く」ことを疎かにしてしまっていないかという問題提起をし、「現場」に良く聴く者こそが良く語る者たりうると断じます。そして「隣り人」となることを基本的な前提としている牧会カウンセリングの目指すものは「臨床（臨床）神学」の形成であるとしています。

ところで、隣り人となるように促されているのは特定の役割を担っている人に限られてはいないでしょう。そうした観点から本をご紹介いたします。**石居基夫編著『スピリチュアルペインとそのケア』**

本書は日本ルーテル神学校附属のデール・パストラル・センターの創設を記念して企画されたシンポジウムに招かれたウアルデマール・キツペス氏、

窪寺俊之氏、賀来周一氏、講演に触発された司会者である大柴譲治氏、そして編集者である石居基夫氏といった「スピリチュアリティ」の第一人者たちによる論考が収録されています。

賀来氏が牧会的活動、スピリチュアルケアは聖職者だけではなく私たち皆が携わる働きであるとしているように、本書は読者として、生と死の問題に直面している人と共にいようとしている全ての人を想定しています。それ

故、生と死と向き合う際に現れてくる問題（存在論的・認識論的・意味論的・目的論的な問いや不条理への問い、苦しみなど）について、そしてそれらへの応答／ケアについて、とても分かりやすく語ってくれています。これからスピリチュアルペインやスピリチュアルケアについて学ぼうという方をはじめ、多くの人が様々な示唆を得ることができると思えます。

なお、個人的には窪寺氏がスピリチュアルケアにとつて重要である「きく」ということを、「聞く」「聴く」「訊く」「利く」「効く」として語っているのも興味深いです。（窪寺氏が編著者として聖学院大学出版会から出している『スピリチュアルケアを学ぶ』というシリーズも、錚々たる論者からスピリチュアルペインやスピリチュアルケアを学べるため、お薦めです。）

## 荒井英子著・荒井献編『弱さを絆に』

本書は牧師でもあり、恵泉女学園大学で教員として人間の生と死、愛と性、病と癒しなどのいのちの営みを学ぶ科目を担当していた荒井英子氏の遺稿集です。パートナーである荒井献氏の編集によって、エッセー二本、チャペルアワー・礼拝メッセージ七本、講演二本、論文九本が収められています。タイトルには北海道浦河町にある「べてるの家」のモットーの一つが用いら

ています。

本書で著者は、自身が授業で大切にしていることとして、「当事者の声をよく聴くこと」「多様性を認めること」「自分自身を問う姿勢」「少数者」の「視点」を挙げていますが、それは本書でも大事にされています。自身を問う直す姿勢を保ちつつ、ハンセン病とキリスト教との関わりについての研究を通して受け取られた想いやご自身のがんととの共生からなされる鋭い批判は、読んでいる者も自然と自分自身を問うことへと促されることと思えます。また本書には、著者の切実な祈りとして読める以下のような文章も多く収録されています。

「人は強さや大きさを絆にする時、すぐさま効率を最優先させ、排除の論理を振りかざし始めます。しかし、弱さを絆にしていく時、弱さには不思議な力があることに気づかされます。誰

をも排除せず、お互いの賜物を生かして、和らぎ合う、心地よい場所を作り出せるからです。ここに生きていてもいいんだ、そして『お互いさま』の中で許しあい、補い合って作る安心と信頼。肩の荷がおりませんか（四八頁）（なお、本書の編者である荒井献氏と本田哲郎氏、高橋哲哉氏による対談・鼎談の書である『3・11以後とキリスト教』（ぶねうま舎）もお薦めです。そこで荒井氏は「弱さを絆に」というタイトルのもと、質問への回答を行っています。）

### ドロテー・ゼレ著『働くこと愛すること』

本書は既に古典と言ってよいもので、語られていることの重要性は現在においても少しも色褪せてはいません。著者は本書での試みを「創造信仰を解放の神学の視点から解釈することであり、存在論的企図を歴史的企図に

照らして解釈することである」としています。そして本誌二〇二〇年八月号で批評・紹介されていた自伝的回想録『逆風に抗して』においては、本書は「消費される私たちの存在を創造の神学から新たに考えようとする試みである」とされています。

私たちは何に依拠しており、何から離れてしまっているのか。私たちは塵から造られた人間であり大地に帰属しているにもかかわらず、大地が私たちに帰属していると思いを違えて、無自覚に他者のものを奪ってしまっているのではないか。私たちは大地／場所を共有しつつ、その現場で共に働くべく造られたのではないか。そしてそのように共に働くことこそが、創造へと参与するということなのではないか。

本書は、私たちの関わりの喪失を指摘しながら、共にしうる大地／場所／場

にはありませぬ）。

今回は日常のあらゆる場面で他者の声に耳を塞ぎがちであり、それぞれどこか耳を塞いでいることにすら気づいていない可能性もあります（少なくとも筆者にはそういった傾向があり、それ故そうしたことでの他人を非難できる立場

にはありませぬ）。

今回ご紹介した本たちは（そして「臨床神学」は）、そうした私たちが誰にとつての誰でありえているのかを問いかけてくる声を聴くことの重要性に気づかせてくれます。そして自分自身と

所を創造するよう促してくる声を聴き、その働きに参与し、隣人であるうと心がけていくよう、働くことと愛することによって共働創造性を生きるよう私たちを促します。（本書の訳者である関正勝氏は、先に挙げた『スピリチュアルケアを学ぶ』の執筆者の一人でもあり、そちらの論考もお薦めです）

現在、私たちは当たり前であることを当たり前としてではなく有難いこととして感じ取れる状況にいます。そしてそうした当たり前を当たり前としていなくなった方々がいた／いるということにも私たちは気づかされたように思います。また、ここ数ヶ月で起こっている様々な出来事によって、そうした方々の声が少し聞こえやすい状態になつているようにも思います。

ですが、それは私たちがその声を聴いてきていれば苦しまなくてもよかつた方々の声ではないでしょうか。私た

### 『スピリチュアルペインとそのケア』

石居基夫：編著  
ウアルデマール・キッペス、窪寺俊之、  
賀来周一、大柴譲治：著  
キリスト新聞社  
2015年刊  
A5判210頁  
1600円(税別)



### 『弱さを絆に』

ハンセン病に学び、がんを生きて  
荒井英子：著  
荒井 献：編  
教文館  
2011年刊  
四六判396頁  
1800円(税別)



### 『働くこと愛すること』

創造の神学  
ドロテー・ゼレ：著  
関 正勝：訳  
日本キリスト教団出版局  
1988年刊  
四六判268頁  
3200円(税別)  
(オンデマンド版)



## 「来るべき方」は 皇帝か？ キリストか？

〈評者〉 島 創平



キリストとローマ皇帝たち  
その戦いの歴史  
E・シュタウファー著  
川島貞雄訳

一般に、キリスト教徒迫害の主な理由として、皇帝崇拜の拒否が挙げられるが、それではなぜキリスト教徒は皇帝崇拜を拒否したのだろうか。また、同じ一神教であるユダヤ教徒よりも、なぜ主としてキリスト教徒が迫害されたのだろうか。

シュタウファーは、古代世界における「救世主」の待望という視点から、この問題を論じている。当時のローマ社会では、内乱を終結させ、平和をもたらす超越的指導者の出現が待望されていた。神格化されたカエサルの後継者であるアウグストゥスによるローマ帝政の成立は、まさに「神の子」である救世主の「到来（アドベント）」を告げ知らせる「福音（エウアンゲリオン）」として、ローマ帝国全土で祝福され、賛美された。このような皇帝賛美はアウグストゥス以後も続いた。皇帝が次々と殺され、帝位が目

まぐるしく変わる三世紀の「軍人皇帝」の時代においても、新皇帝の即位のたびごとに、当時の貨幣に刻まれた銘文や神格化された皇帝像が示すように、皇帝の神的礼賛が繰り返された。

一方、アウグストゥス治下のローマ帝国の辺境地ユダヤでは、神の救済計画の歴史の中で、全人類の救世主としての使命を負った「神の子」イエス・キリストの「到来（アドベント）」の「福音（エウアンゲリオン）」が告知され、キリスト教が成立した。それゆえ、ローマ帝国におけるキリスト教徒迫害は、ローマ皇帝とイエス・キリストのどちらが真の「来たるべき方」⇨「救世主」であるか、という問題がその根底にあったのである。

本書は一九四八年に初版が出版されたが、最近の歴史学の立場から見ると、シュタウファーは皇帝崇拜の役割を強くないだろうか。

調しすぎているように思われる。当時のキリスト教徒裁判においては、主として神々への供儀が命じられ、皇帝への供儀は諸神礼拝と並んで付随的に言及されるだけで、皇帝礼拝だけが要求されることはほとんどなかった。また皇帝の神格化は皇帝の死後、元老院での「死者裁判」を通じて行われたが、現皇帝の神格化は、ごく少数の例外を除き行われなかった。「暴君」と言われるネロも自己神格化を否定している（他方本書では重視されないが、カエサル暗殺の要因は、彼が自己神格化を試みたことであつたとも言われる）。

むしろ本書の意義は、キリスト教とローマ帝国の関係に、新しい視点を提供したことにある。両者は単に排他的対立関係にあつただけではなく、その思考形式や用語法などにおいて、相互に重複し、影響し合う面も持ち合わせていた。このような両者の「交流」の側面が、四世紀におけるキリスト教の公認から国教化へとつながる一因となつたのでは

シユタウファーは神学者であると同時に、古銭学にも詳しい原始キリスト教史家でもある。それゆえ本書は、天からの救世主と地上の救世主の対決の歴史的位置づけという、通常の歴史学では扱いづらいテーマを論じながら、決して通俗的にならず、学問的にも説得力のある内容となつている。また前述したように、本書は第二次大戦終結三年後に初版発行されたが、本書における論考は、大部分がヒトラー時代に執筆された。シユタウファーは彼の反ナチスの姿勢ゆえに、一九四三年に一切の公的活動を禁止された。このように、本書は彼のナチス第三帝国との戦いの中で書かれており、「真の救世主は誰か」という本書のテーマは、シユタウファーにとって、当時の彼自身が直面する現実の問題でもあつたのではないだろうか。

（しま・そうへい⇨元東洋英和女学院大学教授）  
（A5判・三六八頁・本体四六〇〇円＋税・教文館）

## なぜ日本に人権思想は根付かないのか？

〈評者〉 芦名定道



抵抗権と人権の思想史  
欧米型と天皇型の攻防  
森島 豊著

キリスト教と近代人権思想との関わりについては、これまで膨大な議論がなされてきた。欧米思想史研究ではもちろん、近代日本という思想的文脈においても、参照すべき文献は無数に存在する。こうした問題状況の中で、欧米思想史と近代日本（天皇制）とを「攻防」として付き合わせるという視点からなされた研究が、一冊の研究書にまとめられた。叙述は明解であり、かつ厚みのある思想史研究である。視野の広さ、一貫した論述は特筆すべきものであつて、また関連分野の研究者との討論に耐えるしつかりした内容である。読者は、現代の問題状況への積極的関与のための基盤をここに見出すことができる。書評者は、神学者テイリツヒが来日した日を振り返り「日本に民主主義は根付くことができるのか」という問いを提出したことを思い出した。本書はどんな答えを与えてくれるだろうか。

本書は、序論終章のほか、二部八章から構成されている。第一部では、人権（特に抵抗権）の成立過程をキリスト教思想史を通して概観し、日本国憲法の制定に与えた影響がたどられる。それに対して、第二部では、日本において抵抗権の確立を阻んだ天皇型人権思想の仕組みと形成過程を、幕末・明治の政治的宗教的政策から解明し、現代への影響を考察する。

以下、書評者が本書に発見した重要テーマを紹介したい。

一 植木枝盛、吉野作造、鈴木安蔵とたどるとき、日本国憲法は押しつけられたものであるどころか、日本国憲法成立過程にはキリスト教人権思想（第一部前半）の影響が確認できる。

二 「天皇赤子という平等観」「天皇型人権」は、日本にも独特な仕方では人権が存在してきたかのような印象を与え、かつ天皇型人権が暴走しない仕組みを思想的にいかにか構築できるのか」ということである。これに対して著者は、「新しい社会に生きる人間形成の問題」、つまり、キリスト教教育の可能性を指摘する。現代日本のキリスト教には、まさにこの人間形成が問われている。

この暗い困難な時代——まえがき副題にならえば「戦争体験者無き時代」——に備えて、読者は、本書から確かな指針を得ることができるだろう。

（あしな・さだみち〓京都大学教授）  
（A5判・四六四頁・本体三〇〇〇円＋税・教文館）

るが、それは、「国家統一の原理」として生み出され、「天皇という一君への忠誠においてすべての人間が平準化される意味での平等」であつて、欧米型人権とは似て非なるものである。明治政府は、「天皇の権威を相対化し、『天皇の神性』に対して抵抗するキリスト教信仰」の「民衆への影響」を恐れた。明治のキリスト者もこの政府の宗教政策の影響下にあつた（小崎弘道、本多庸一ら）。

三 戦前と戦後の連続性。「信教の自由の原理」によって皇室祭祀は残り、神社神道も認められ、天皇制が維持されることで『戦前と戦後が連続性を保つことができた』、「明治政府が作り上げた宗教政策の骨組みは生き残っている」。

四 「日本における今日的課題」は、「精神的な領域で継続している日本独特の国体の構造原理の中で、人権を守り、

## 病と信仰 病を担うイエスと生きる

黒鳥倬作



医療の最前線に立つ医師であり、伝道者でもある著者が、旧新約聖書、生涯の師・平山正実、ヘンリ・ナウエンに学びつつ、自身の臨床経験を踏まえて病と信仰、救いについて考察する。

四六判並製・144頁・1430円

## 現代キリスト教教育学研究 神学と教育の間で

朴憲郁



聖書神学、教会教育、キリスト教学校教育、教育者養成、人間形成など多岐にわたる視点からキリスト教教育学を論じた集大成的著作。

A5判上製・680頁・8250円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》  
<http://bp-uccj.jp>

# 今、心づいて 韓国からのメッセージ

〈評者〉きどりのりい



信仰と人生  
ある韓国キリスト者の5分間講話  
任哲完著  
倉橋葉子訳

韓国と日本のキリスト教をつなぐ重要な一冊が訳出されました。著者の任哲完<sup>イムテウワン</sup>さんは韓国全北大学校医科大学の教授で皮膚科の重鎮ですが、この本は全北CBS（プロテスタント系のキリスト教放送局）で、二〇一五年から一六年まで、五分間を一回として放送された連続講話をまとめたもので、「神とイエス・キリストに関心を寄せる兄弟姉妹の皆さんに捧げます」という言葉が添えられています。

一つ一つの講話は、興味深いテーマで解りやすく語られ、特に若い人たちが、キリスト者でない人たちも思わず引きこまれるような、親しみやすい内容と語り口になっています。復活し、今も生きておられるイエスに出会うこと、そして常に私たちの傍にいてくださるイエスとともに生きること……そのためには聖書をまず読んでみることを勧める著者は、けっして声高には語りません。

国ですが、教会職分の肩書を重視するなど、その問題点もあり、著者はパウロが信徒の安否を訊ねるのに教会での肩書にふれていないことに言及しながら指摘しています。「愛の実践をとまなう信仰こそ大切である」（ガラテヤ書五章六節）が引用されているように、この講話そのものが愛の実践でもありますが、さらに本書の推薦者である曹泳敏<sup>チョウヨンミン</sup>さんの、自分の腎臓や肝臓を臓器提供した文章も本書には添えられています。

また「体面と呼称を重要視する国 大韓民国」と題した所感も巻末に掲載され、そこでは一九一〇年以前にも日本は韓国をその一部としていたという指摘があります。

私たちが日韓の真実の歴史を知り、反省することは当然ですが、著者は経済発展を遂げた韓国についても、神の前

たとえば「旅券」では、パスポートにまつわる話題を紹介しつつ、天国に入国する時に旅券を発行して下さるのはイエスであることが語られます。「聖書を読むこと」では、イエスの復活は世界史の本にはなく、聖書だけに出てくるので、聖書をよく読むように、と勧められます。

また、大衆歌謡や映画などの話題や、「家<sup>カフマンソン</sup>和万事成」(家の中が仲良いと万事がうまくいく)といった言葉、韓国が「一〇〇歳時代」を迎えたことや、世界一の自殺率の高さなど、日本の読者にとっても韓国文化と社会を理解するきっかけとなり、そうしたテーマから「キップン・ソリ」(喜びの声)である「福音」につながる講話は、とても魅力的です。韓国で歌われている賛美歌と、それについてのお話も、興味深いものでした。

日本と比べものにならないほどキリスト教が普及した韓

で正直になることを願う、ときびしい提言をしています。

巻末にはまた、元大韓ハンセン病学会長だった著者が、患者の方たちが暮らす小<sup>ソコクト</sup>鹿島を訪問された記録があり、これも貴重なものでした。本書を飾っている絵は著者の実姉で知的障がいを持たれていた任一順さんの作品であり、著者は二〇一二年に『私の姉 任一順』を出されています。

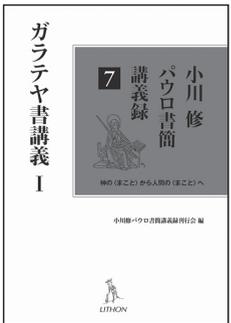
あとがきで訳者の倉橋葉子さんが書かれているように、この『信仰と人生』は、日本・韓国・朝鮮の間での相互疎通のための一助となる本だと思えます。

倉橋さんとともに「ムルレの会」の活動をされてきたキリスト者坂内宗男さんも序文を寄せておられます。

(きどりのりい 児童文学者)  
(A5判 二四〇頁・本体一八〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)



新刊



## 小川修パウロ 書簡講義録7

### ガラテヤ書講義 I

小川修パウロ書簡講義録刊行会編  
●A5判上製 二九九頁 ●定価三〇〇〇円

小川修先生が長年追い求め掴まれた福音理解は、同志社大学神学部大学院での三年間(二〇〇七〜一〇年)に亘るパウロ書簡講義に結実したと言っても過言ではない。ひとこと言えば、「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」というパウロの福音理解であった。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

# メガイベントに反対する 「二つの傷」の叫び声

〈評者〉 福嶋 揚



現代のバベルの塔  
反オリンピック・反万博  
新教出版社編集部編

日本政府は原発事故の被害を隠すことによつてオリンピックを招致した。こうした虚偽は今に始まったことではない。ナチスが利用したベルリン・オリンピックも、米ソがメダル数を競った冷戦期のオリンピックも、スポーツの祭典を装う国家と資本のための祭典だった。そうしたグローバルなメガイベントの虚妄性と暴力性を『現代のバベルの塔』——反オリンピック・反万博』は多角的に照射する。

まず有住航氏は、万博を支える日雇い労働者の視点から、創世記一章のバベルの塔の物語に注目する。テキストの背景に、バビロンの巨大建設事業とその頓挫が見えてくる。塔の権力に支配されていた捕囚民は「自由と解放を求める混乱（バラル）の民」となる。

いちむらみさこ氏は、野宿生活者の視点から、オリンピックに伴う再開発、路上生活者の排除、愛国心の強要を

批判し、それらに対抗する「弱い」仲間たちのつながり合いを呼びかける。

酒井隆史氏によれば、大阪万博は公共地の民営化や競争原理といったネオリベラルな都市政策であり、その総仕上げが大阪の都構想（売り飛ばし）である。だが気候変動や民衆の反乱がイベントを危機にさらす。今や経済成長を求める支配的ゲームから降りる勇気が必要である。

入江公康氏は、新国立スタジアムを見て「廃墟画」を連想する。かつて東京は五輪中止の数年後に空襲で焼土となった。ナチスの建築家が古代ローマに憧れたように、東京も永遠の帝都を目指しつつ、復興と荒廃を空しく繰り返す。塚原東吾氏は、オリンピックと万博が強烈でナイーブな技術信仰と発展史観に支えられていると言う。また東京五輪を突き動かす「災害資本主義」と「正常性バイアス」、

さらに大阪万博の脆弱な立地が「原発震災」の二の舞となる危険を指摘する。

田中東子氏は、オリンピックと万博における人種差別や性差別を告発する。初めは排斥されていた女性アスリートが、ある程度平等に参加するようになった今でも、女性の多様性が抑圧され、男女性別が再強化されている。ならば参加する意義そのものが疑わしい。

坂井めぐみ氏はパラリンピックの歴史を繙く。その目標は「インクルーシブな社会の創出」だった。だがそこでは「働ける／働けない」「できる／できない」「役立つ／役立たない」といった線引きが行われ、目標と現実がずれている。

井谷聡子氏は、オリンピックが西欧中心主義、植民地主義、男性支配を体现していること、さらに軍事化と監視社

会を強化することを指摘しつつ、それに反対する戦いが勃発していることに注目する。

最後に白石嘉治氏は、パンデミックの時代にスピノザの『エチカ』を読み解く。資本制が破綻しつつある現状から「物質的身体の劇的な回帰」を見て取り、スピノザが説いた身体の倫理、「私のからだ」の復権を語る。

このように本書が呼びかける多面的な抵抗は、オリンピック中止後も続くだろう。解放の神学者L・ボフの言葉を用いるならば「血を流している二つの傷」、つまり貧しい者と生態系の「叫び」が今やメガイベントに反対している。国家や資本にとって役に立たない無力で弱い者たちが、逆説的に変革の主人公となる。評者も一神学徒としてそこに連帯したい。（ふくしま・よう＝神学・倫理学）

（四六判・二〇〇頁・本体二〇〇〇円＋税・新教出版社）

# 病の神学

新刊

ジョン・ロッド・ラルシュ 著  
二階宗人 訳



病気は人間であることと条件と関係づけられている——教父の神学に依拠しつつ、病の意味を問う。病気とその痛みを癒すこと、さらに人間の霊的な全体的救いをキリスト教の視点から展望する。

A5上製・3200円（税別）

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14  
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819  
http://www.kyoyusha.com

周縁の視点から  
ダイナミックに描く

〈評者〉 柳下明子



キリスト教史下巻 増補新版  
宗教改革から現代まで  
フスト・ゴンサレス著  
石田 学、岩橋常久訳

本書は二〇一〇年に出版されたThe Story of Christianity volume 2 Revised and Updatedの翻訳です。一九八五年に出版された原書が、日本で出版されたのは二〇〇三年です。日本語版刊行の七年後には既に改訂されていたということになります。宗教改革から現代までを扱う本書の増補新版では、宗教改革関連で一章が、近現代で二章が加筆されています。

増補新版において大きく変化しているのは、近現代の区分です。旧版で第三部「十九世紀」第四部「二十世紀」として時系列に沿って歴史化された出来事を著述して行く伝統的な区分に従っていたものを、増補新版では一つの時代と捉え、第三部「キリスト教世界」を超えて」と名付けています。ゴンサレスは近現代のキリスト教の歴史を、「キリスト教世界」を超えて、キリスト教が変容して育って行

く時代であると提示しているのです。そのため第三部の冒頭に26章『キリスト教世界』を超えゆく時代へ」という新章を加え、十九世紀の社会変動を俯瞰し、合衆国、ヨーロッパ、ロシアでの革命から、旧来の西欧植民地主義の停滞と経済的植民地主義への展開、さらにはこの時代がプロテスタントの地理的拡大の時代であったことを概観します。そのような視点から、各地域の経験を「変わりゆく世界」という共通のキーワードを持った章立てのもと、アメリカ合衆国、西ヨーロッパ、ラテンアメリカ、東方教会の歩みを大幅に加筆して見直します。

と緊張のバランスのもと大きく伸長しています。こうした「周縁」地域のキリスト教はラテンアメリカに始まった「文脈化の神学」の担い手でもあります。かつての「中心」が危機に陥る一方、「周縁」はキリスト教の新しいあり方や思考の枠組みを生み出し、キリスト教世界の地図は塗り替えられつつあります。キリスト教が明白な唯一の中心を持ち得なくなった時代は「キリスト教の物語を革新的に新しい仕方で見直す機会を提供している」(四五七頁)というゴンサレスの言葉に耳を傾けるなら、現代の日本の教会も近代に形成されたシステムの崩壊を嘆くよりも、自分たちが「周縁」と見なしていたところに新しいものを生み出す可能性が秘められていることに気づかされ励まされるでしょう。

これに続く第三部の結びの二章は、ゴンサレスが新版で伝えようとするものの中心です。それが「周縁とされてきた世界の活力」(37章)です。ゴンサレスによれば、二十世紀の終わりの数十年から二十一世紀にかけて伝統的にキリスト教の「中心」と見なされた地域でキリスト教が危機に直面している間に、かつては「周縁」と見なされた地域でキリスト教は進展してきたのであり、こうした地殻変動は二世世紀から四世紀のローマ帝国へのキリスト教の伝播、また七―八世紀のイスラムとの出会いなど、歴史の中でキリスト教がすでに経験してきたことであるというのです。この地殻変動から、南インドの教会は独自の展開で教会一致のモデルを生み出し、中国のキリスト教は政府への従属

(A5判・四七〇頁・本体五九〇〇円+税・新教出版社)

(やなした・あきこ 日本聖書神学校教授)

# 会衆の魂に響き渡る説教

〔評者〕井ノ川 勝



カルヴァン説教集3  
恵みによって  
エフェソ書第2章(上)  
ジャン・カルヴァン著  
アジア・カルヴァン学会編訳

待望のカルヴァンのエフェソ書の説教集3が刊行された。第一巻『命の登録台帳』、第二巻『神への保証金』に次ぐ、第三巻『恵みによって』である。エフェソ書二章の四編の説教が収められている。アジア・カルヴァン学会の共同訳であり、フランス語原文と邦訳が並置されている。説教集の題名にいつも心惹かれる。編集者が説教から選んだ言葉である。カルヴァンがいかに福音の真理を魂に刻む言葉を用いたかが分かる。今回の『恵みによって』は、『命の登録台帳』『神への保証金』に比べると、インパクトが弱いと思った。しかし、名詞形ではなく、『恵みによって』としたのは、福音の持つ救済のダイナミズムを伝えたいからである。エフェソ書二章は、キリストの救いの出来事を、「恵みによって」と集中表現で語っており、カルヴァンも「恵み」に集中する。「神が命の教えを地獄の底まで

んだ竹森満佐一牧師、田中剛二牧師の影響が強い。しかし、私ども伝道者はその説教のルーツであるカルヴァンの連続講解説教に触れて学んでいない。竹森牧師は『講解説教コリント人への第一の手紙』(新教出版社)の「あとがき」で、カルヴァンの説教から学んだ点は「教理的、信仰告白的である」と語る。講解説教とは聖書の言葉を訓詁注釈することではない。テキストを教理的主題に則り再構成し、立体化させ、福音の真理により、会衆の罪の真相を暴き、神の面前で悔い改めへと導き、神への賛美、キリストに従う行為へと呼び立てることにある。そこに力ある伝道的な説教となる源がある。今回の説教集で気づいたことがある。散文の合間に韻文が語られている。「神は私たちが神を求めているかなど問わない。……神は私たちに何か奉仕

届かせ、そこに沈んでいた私たちが甦らせようと望まれるのは驚嘆すべきことです。……私たちの悲惨が大きいだけに、それに応じて、神もまた測りがたいほどの憐れみの富を私たちに及ぼしてくださったということです。だから彼(パウロ)は『私たちが愛してくださった神の大いなる慈愛』と付け加えているのです。神には私たちが魅了して止まぬ恵みがあったからです。その恵みは私たちの感覚をはるかに超えて大きく、それを味わおうと努めてみても、私たちにはその百分の一も味わえないほどなのです」(八七〜八九頁)。

カルヴァンはジュネーヴのサン・ピエール教会の主日礼拝で、一五五八年五月一日よりエフェソ書を四八回に亘り連続講解説教をした。今日、日本の福音主義教会の多くの牧師が連続講解説教をしている。カルヴァンの説教を学

ができるかを問わない。……神は私たちに何か『良い備え』があるかなど問わない。私たちの考えも欲望もすべて、神の正義に逆らう忌まわしい敵だから。では何を問われるのか。何に心動かされて私たちを助けてくださるのか。私たちの内にある底知れぬ惨めさと、かくもひどい混乱をご覧になられ、神は深い憐れみを注ぎ給う」(六七頁)。散文と韻文とが福音のリズムを奏で、会衆の魂に響き渡る。教理的であり同時に文学的である。全ての説教が「コーラム・デオ」(神の面前)で結ばれる。「私たちの恵み深い神の御前に額ずき、祈りましょう」。一日も早い完訳を期待している。

## 大頭真一 焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇② 天からのほし(バ)

創世記・下 新書判 一四〇頁 二〇〇円



待望の最新刊！  
天からのほし(バ) 創世記・下 新書判 一四〇頁 二〇〇円  
哭き叫ぶ、夢を見る、格闘する……。体をはつて神と向きあう姿が描かれています。天からのほし(バ)の表紙は現代の私たちに何を物語るのか。死地に活路を見いだしながら波乱の人生を生き抜いた信仰の始祖たちに物語神学の雄・パスター・オズによる第2弾！

## 金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代Ⅰ ヨーロッパ精神の源流

全7冊にて刊行！  
装幀は変更される場合があります  
キリスト教思想史の諸時代Ⅰ  
ヨーロッパ精神の源流  
ヨロップパ精神の源流

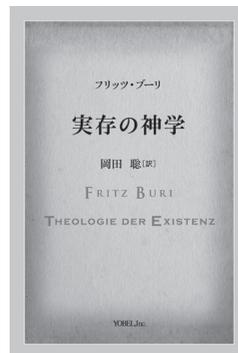


- II 『アウグスティヌスの思想世界』
- III 『ヨーロッパ中世の思想家たち』
- IV 『エラスムスと教養世界』
- V 『ルターの思索』
- VI 『宗教改革と近代思想』
- VII 『現代思想との対決』

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

## 非神話化を徹底した 非ケリユグマ化の神学

〈評者〉 笠井恵二



実存の神学  
フリッツ・ブーリ著  
岡田 聡訳

本書はフリッツ・ブーリ(一九〇七—一九九五)が一九五四年に発表した『実存の神学』の翻訳である。ブーリはカール・バルトと同時期にバルトとは対照的な哲学的神学の立場でバーゼル大学で組織神学を講じていた神学者である。本書の内容は「啓示と実存」、「実存にとっての神」、「恩寵としての実存」、「実存のキリスト論」、「時間の内のキリスト教の実存」となっている。ブーリは哲学の分野ではカール・ヤスパースから「実存」と「暗号」という理念を受け継ぎつつ、神学ではブルトマンの「非神話化」とアルベルト・シュバイツァーの「非終末論化」を徹底した「非ケリユグマ化」非宣教化(Entkerygumatisierung)を提唱した。また一九五六年、六二年、七八年に三巻の膨大な「キリスト教信仰の自己理解としての教義学」を発表している。ブーリによれば実存は、自らにも他者にも普遍妥当的に

証明することができないような自己存在を表すものである。この現実には、自己自身の客観化されえない内的な気づきにおいてのみ開示される。この内的な気づきによって、私は初めて私がそれであるところのものになるのである。実存に属するものとして、自らの歴史性への信仰告白がある。それは自らにとってのみ妥当し、一般化されない仕方であり、自己を現実化することが、かならず有する制約性を引き受けることである。しかしそのことによつて可能にされる、自己存在する実存の共同において、時間の内での真理の永遠の国が現れるのである。実存にとっての神という観点から、神と世界についての教説や、神の存在証明の可能性、神の人格性、世界における奇跡と災いの問題に解答があたえられる。また罪と罪責、赦しと新たな創造は、自己を恩寵として理解する実存にとつて、リアリティあるもの

となる。救済手段、教会、彼岸と終末の表象は、時間の内のキリスト教的実存の媒介形式、現実化の形式、表現形式として、自らの意義をもつのである。

本書は七六年前に書かれたものであるが、今日においても決して時代遅れのかび臭いものではなく、現代に生きるわれわれの根本的な問いに答えを示唆してくれる。諸宗教の対話が盛んになされている今日、あの時代にすでにこのような立場で独自の神学を樹立していたブーリの思想から、二十一世紀に生きるわれわれが学ぶべきことは少なくない。六九年には国際基督教大学で教鞭をとったブーリは、日本の宗教にも非常な親近感を示し、八二年には「真の自己の主としてのブツダニキリスト・京都学派の宗教哲学とキリスト教」を発表している。ブーリは非ケリユグマ

化を遂行したといつても、決してキリスト教を否定したわけではない。むしろ万人が受容できるような神学を樹立しようとしたのである。

訳者の岡田氏はヤスパースの研究者であり、自分はキリスト者ではないと明言している。しかし同氏のように、キリスト教に深い理解をもちながらもあくまで哲学者としての立場からキリスト教に接していこうという立ち位置から、われわれキリスト者が教えられることは多いのではないだろうか。訳者の今後のさらなる活躍に大いに期待するものである。

(かさい・けいじ 京都産業大学名誉教授)  
(四六判・一六八頁・本体一五〇〇円＋税・ヨベル)

### ヨベルの新刊案内

## P・T・フォーサイス 川上直哉訳著 聖なる父 コロナの時代の死と葬儀

待望の新刊!



「現場の神学—Positive Theology」に挑戦し、実践を試み続け、思索する川上直哉牧師による、フォーサイスの名説教「聖なる父」の全訳。2020年のコロナ・パンデミックに遭遇した現代日本の苦悩を透過して語りかけてくるものを聴く。論考「コロナ時代の死と葬儀」を併録。新書判・一〇〇〇円

## キム・ナムグク 「わたし」があなたを 使いたい

チェ・キムベ訳  
発行 DENKI

反響!



「まだ意地を張りたいのか?」自分の思い通りに判断、決断し、帰ってくるのはより大きな不満と恨みだけ! 自分の考えで凝り固まった意地を張る私を我慢してくださる神。叛逆と不従順のこの時代を御言葉で振り向かせるキム・ナムグク牧師のヨナ書講解

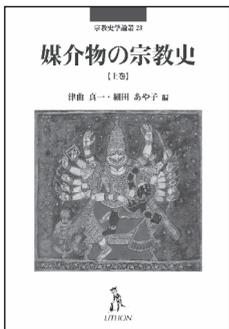
四六判・二四八頁・一五〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

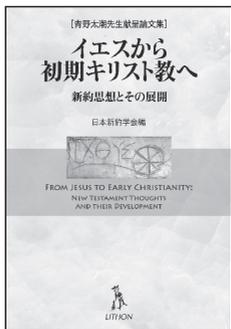
LITHON [リトン]  
101-0061 千代田区神田三崎町 2-9-5-402  
☎03-3238-7678 FAX 03-3238-7638



最新の刊行物より



媒介物の宗教史 [上巻]  
津曲真一・細田あや子 編  
●A5判上製 ●本体4000円＋税



イエスから初期キリスト教へ  
新約思想とその展開  
日本新約学会 編  
●A5判上製 ●本体5000円＋税



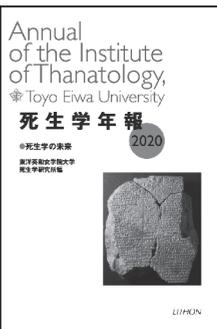
エルトムート・ドロテア  
ヘルンフト同僚教団の母  
エリカ・ガイガー 著 梅田與四男 訳  
●四六判並製 ●本体2000円＋税



ユダヤ教とキリスト教  
上智大学キリスト教文化研究所 編  
●四六判並製 ●本体2,000円＋税



一神教世界の中のユダヤ教  
勝又・柴田・志田・高井 編  
●A5判上製 ●本体5000円＋税



死生学年報 2020  
死生学の未来  
東洋英和女学院死生学研究所 編  
●A5判並製 ●本体2500円＋税



アウグスブルク  
信仰告白  
メラニヒトン著 ●ルター研究所訳  
●B6判並製 ●定価：1000円＋税



『キリスト者の自由』  
を読む  
ルター研究所編著  
●B6判並製 ●定価：1000円＋税



エンキリディオン  
小教理問答  
ルター著 ●ルター研究所訳  
●B6判並製 ●定価：900円＋税

# 全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本 キリスト教書店大賞2020

2019年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から、  
全国のキリスト教書店員  
の投票により **大賞が決定!**



## ナウエン・セレクション 今日のパン、明日の糧

暮らしにいのちを吹きこむ366のことば

ナウエン・セレクション  
Henri Nouwen  
Bread for the Journey: A Daybook of Wisdom and Faith  
ヘンリ・ナウエン  
今日のパン、明日の糧  
暮らしにいのちを吹きこむ366のことば  
編者(順): 河野正雄(訳): 酒井陽介(監訳)

大賞

オススメ  
揺れ動くことが否定的に捉えられがちの中で、揺れ動き、迷うことへの肯定があることに救いを感じられます。  
アパコ・ブックセンター  
山本真里江さん

受賞のことば  
ここに紡がれているメッセージを一言で表すと、「見よ、この人を」だと思います。勿論、この人とは、イエス・キリスト。この日々の小さな黙想は、ナウエンの眼差しの先にあったイエスを共に見つめるように招いています。ナウエン渾身の日々の語り、いただきます!  
解説者 酒井陽介(イエス会司祭)

2,640円

解読者 酒井陽介(イエス会司祭)

日本キリスト教団出版局

## 第2位 にゃんこバイブル

猫から学ぶ聖書のことば

塩谷直也 著 勝間としを 絵 1,980円

オススメ  
表紙のイラストのかわいさに手に取り、各ページの猫たちにはっこりし、添えられていることばとエッセイが更に心をいやしてくれます。  
ライフセンター新潟書店 永井美智代さん

保育社

## 第3位 神の祝福をあなたに。

歌舞伎町の裏からゴッドブレス!

関野和寛 著 1,100円

オススメ  
前作に比べてタイトルがおとなしいなあと思ったのですが(笑)、舞台は変わらず美しいと涙と神さまへの熱い想いであふれていました。  
大阪キリスト教書店 上田玲子さん

日本キリスト教団出版局

## 第4位 かみさま、きいて!

こどものいのり

大澤秀夫 / 真壁 巖 監修 1,100円

日本キリスト教団出版局

## 第5位 若者に届く説教

礼拝・CS・ユースキャン

大嶋重徳 著 1,320円

教文館

## 第6位 めくもりの記憶

片柳弘史 著 1,100円

教文館

## 第7位 十字架への道

受難節の黙想と祈り

小泉 健 著 1,320円

日本キリスト教団出版局

## 第8位 愛の余韻

榎本てる子・命の仕事

榎本てる子 著 青木理恵子 編 1,980円

いのちのことば社

## 第9位 ヒップホップ・レガレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教

山下壮起 著 3,520円

新教出版社

## 第10位 新しい一人の人

キリストのからだにおけるユダヤ人と異邦人の和解

アリエル・ロニクス・アムノール 著 ONE NEW MAN 翻訳チーム 訳 2,200円

ゴスペル・ライト出版

主催 キリスト教出版販売協会  
※表示価格は10%税込価格

キリスト教書店大賞のページで「いいね!」をクリックして最新情報をGET!

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>



10周年記念企画「読者が選ぶ 歴代ベスト3グランプリ 2011～2019」の結果やキリスト教書店大賞の詳細は上記フェイスブックページをご覧ください。QRコードで簡単アクセス!

| 書店名             | 郵便番号     | 住所                      | 電話           | ファックス        | URL  | メール                             | 郵便振替           |
|-----------------|----------|-------------------------|--------------|--------------|--|---------------------------------|----------------|
| 北海道キリスト教書店      | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目            | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jb-shop.com                           | sasaki@jb-shop.com              | 02770-2-56520  |
| 善隣館書店           | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37           | 019-654-1216 | 共用           |  | zeninkan_syoten_0530@yaho.co.jp | 02350-0-874    |
| 仙台キリスト教書店       | 980-0012 | 仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F | 022-223-2736 | 共用           |  | fqcwk524@ybb.ne.jp              | 02230-0-31152  |
| 恵泉書房            | 260-0021 | 〒新神戸区2-2 榎ヶ丘センタービル      | 043-238-1224 | 043-247-3072 | http://www.keisen.christian.jp                   | keisen@vesta.ocn.ne.jp          | 00120-9-43619  |
| 教文館             | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1           | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp                      | xbooks@kyobunkwan.co.jp         | 00120-2-11357  |
| 聖公書店            | 350-1331 | 埼玉県狭山市新狭山1-5-1          | 042-900-2771 | 042-900-2722 |  | seikoshoten@bible.or.jp         | 00160-2-18410  |
| アパコ・ブックセンター     | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18        | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | http://www.avaco.info                            | avaco@avaco.info                | 00130-0-96398  |
| 待農堂             | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1         | 03-3333-5778 | 共用           | http://taisindo-books.jimb.com/                  | taisindo@icom.home.ne.jp        | 00110-8-95827  |
| バイブルハウス南青山      | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1           | 03-3567-1995 | 03-3567-4435 | http://biblehouse.jp                             | biblehouse@bible.or.jp          | 00160-2-18410  |
| 横浜キリスト教書店       | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96            | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www.biglobe.jp/~yohatara.cds/index.html   | sksch@mva.biglobe.ne.jp         | 00250-4-2512   |
| 清光書店            | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313            | 025-229-0656 | 共用           |  |                                 | 00560-8-51419  |
| 静岡聖文舎           | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26          | 054-260-6644 | 054-260-5612 | http://www.s-seibun.co.jp/                       | info@s-seibun.co.jp             | 00810-8-26558  |
| 名古屋聖文舎          | 464-0850 | 名古屋市千種区今池5-28-4         | 052-741-2416 | 052-733-2648 | http://nagoya-seibunshita.cococan.jp/            | nagoya-seibunshita@nifty.com    | 00810-5-14073  |
| 京都ヨルダン社         | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東1ル        | 075-211-6675 | 075-211-2834 | http://webkyoto-net.or.jp/people/kjordan/        | kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp    | 01010-2-594    |
| 大阪キリスト教書店       | 530-0013 | 大阪市北区茶屋町2-30            | 06-6377-6026 | 06-6377-6027 | http://osakacbs.web.fc2.com/                     | ochrbook@river.ocn.ne.jp        | 00990-3-43009  |
| バイブルハウスびぶるすの森   | 591-8041 | 堺市北区東雲東町1-1-16          | 072-257-0909 | 072-253-6132 |  | sakai-jbs@bible.or.jp           | 00160-2-18410  |
| 神戸キリスト教書店       | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F   | 078-331-7569 | 078-945-9388 |  | kobex@nikkiban.co.jp            | 00170-2-421390 |
| 広島聖文舎           | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7            | 082-208-0022 | 082-208-0177 |  | hseibun0951@yahoo.co.jp         | 01360-4-1958   |
| 徳島キリスト教書店       | 770-0052 | 徳島市中島町3-57-1            | 088-633-6335 | 共用           | http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/                      | tokushoten@shirt.ocn.ne.jp      | 01630-5-37119  |
| 松山キリスト教書店       | 790-0804 | 松山市中一万町1-23             | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html | sksch@dokidoki.ne.jp            | 01650-1-2120   |
| 北九州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上雷野5-2-18        | 093-967-0321 | 共用           |  | kbookcenter@bible.or.jp         | 01780-4-39965  |
| 新生館             | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7           | 092-712-6123 | 092-781-5484 | http://www.sinseikan.jp/                         | info@sinseikan.jp               | 01750-5-10932  |
| キリスト教書店ハレルヤ     | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23            | 096-372-3503 | 共用           |  | k-haleruya@bible.or.jp          | 00160-2-18410  |
| 沖繩キリスト教書店       | 903-0207 | 中瀬調子路777 沖縄キリスト教館内      | 098-943-7221 | 共用           | http://www.okinawacbs.com/                       | okinawacbs@yahoo.co.jp          | 020308-1283    |

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

### 既刊案内 (2020年6月~7月) (定価はすべて本体価格+税)

| 編・著・訳者                         | 書名                                      | 判型      | 頁   | 本体価格  | 版元          | 発行日  |
|--------------------------------|---|---------|-----|-------|-------------|------|
| E.シュタウファー著<br>川島貞雄訳            | キリストとローマ皇帝たち<br>—その戦いの歴史—               | A 5     | 368 | 4,600 | 教文館         | 6/30 |
| 任倉哲完著<br>橋葉子訳                  | 信仰と人生<br>—ある韓国キリスト者の5分間講話—              | A 5     | 240 | 1,800 | 日本キリスト教団出版局 | 6/1  |
| 越前喜六                           | 必ず道は開かれる                                | 四六      | 112 | 1,000 | 〃           | 6/20 |
| 吉岡光人編                          | 信仰生活ガイド<br>十                            | 四六      | 128 | 1,300 | 〃           | 6/25 |
| 新教出版社編集部編                      | 現代のパベルの塔<br>—反オリンピック・反万博—               | 四六      | 200 | 2,000 | 新教出版社       | 6/30 |
| 大和昌平                           | 牧師の読み解く般<br>若心経[新装版]                    | 新書      | 312 | 1,100 | ヨベル         | 6/1  |
| 李信建著<br>朴昌洙訳                   | キリスト教神学とは何か<br>—組織神学入門—                 | 四六      | 392 | 2,000 | 〃           | 6/10 |
| 金子晴勇                           | わたしたちの信仰<br>—その育成をめざして—                 | 新書      | 240 | 1,100 | 〃           | 6/25 |
| 日本キリスト改革派教会大会教育委員会編<br>牧田吉和監修  | 神さまと共に歩む道<br>—『子どもと親のカテキズム』解説—          | 四六      | 300 | 2,000 | 教文館         | 7/30 |
| 及川信                            | ルカ福音書を読もう上<br>—この世を生きるキリスト者—            | 四六      | 280 | 2,600 | 日本キリスト教団出版局 | 7/22 |
| 古賀博                            | 信仰生活ガイド<br>使徒信條                         | 四六      | 128 | 1,300 | 〃           | 7/25 |
| J.M.ロビンソン著<br>加山久夫、中野実訳        | イエスの福音は<br>—何それ本当は何か—                   | 四六<br>変 | 410 | 3,500 | 新教出版社       | 7/1  |
| J.ゴンザレス著<br>石田学、岩橋常久訳          | キリスト教史<br>—下巻増補新版—<br>—宗教改革から現代まで—      | A 5     | 470 | 5,900 | 〃           | 7/1  |
| 日本クリスチャン<br>アカデミー関東<br>活動センター編 | 次世代への提言！<br>—神学生交流プログラム講演記録集—           | A 5     | 368 | 2,100 | 〃           | 7/31 |
| ヴァルター・<br>リュティナー著<br>野崎卓道訳     | 主イエスの言葉と働き<br>—ルカ福音書1章から<br>10章による講解説教— | 四六      | 405 | 2,300 | 〃           | 7/31 |
| 日本聖書学研究所編                      | 聖書学論集51                                 | A 5     | 130 | 3,000 | リトン         | 7/1  |
| 小山清孝                           | 今、よみがえる<br>創世記の世界                       | 新書      | 208 | 1,100 | ヨベル         | 7/15 |
| 鎌野善三                           | 3分間のグッド<br>ニュース「預言」                     | A 5     | 272 | 1,600 | 〃           | 7/31 |

# 福音と世界

2020年10月号

特集 疫病と文明の終わり

寄稿者 酒井隆史、箱田徹、村澤和多里

坂井めぐみ、草柳千早、有住航

好評連載 「Say a Little Prayer」 開かれる世

界(栗田隆子)、「いまを生きていることば(金退野)」、パシロンの路上「Conjecture of a Son of a Preacher Man (マニエール・ヤン)」、くまざんのシネマめぐり(好井裕明)、教文学入門(土井健司)、新約釈義 第一 テモテ書(辻学) ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

## 編集室から

気がします。熱心に視聴してくださる方がいらっしやるからこそ続けられます。説教は語り手と聞き手が協力してつくるものだということばの意味が分かってきました。

当然読む本も聖書関係が中心です。読み疲れを感じたので、配偶者にすすめられた『ミステリーの書き方』（幻冬舎文庫）という本を拾い読みしました。日本推理作家協会に属するミステリー作家たちが、ミステリーとは何か、プロットやトリックをどう作るかなどの問いに答え、自らの

四月の半ばから毎週、教会学校成

人科の教材として聖書のおはなし

動画を作っています。毎週毎週聖書

のおはなしに追いたてられて過ご

すうちに、毎週説教をしている牧

師の苦勞がちよつと分かったような

## 予告

### 本のひろば

2020年11月号

#### 本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 北村裕樹、(特集・この三冊)「Black Lives Matter」山下壮起、(書評) J・J・コリンズ著『死海文書』物語、鎌野善三著『3分間のグッドニュース「預言」』、小山清孝著『今、よみがえる創世記の世界』他

手の内を明らかにしています。ここまで書いていいのかな、と思う記事がたくさんあります。

この本が面白いのは、人によって言っていることがばらばらだということです。緻密な物語展開で知られるあの大家作家(さて誰でしょう)がほとんどプロットを書かずに執筆しているかと思えば、ハリウッド映画の脚本の書き方を忠実に守って書いている人もいるといった具合です。自分に合った方法を見つけることが大切なのだということを、この本は教えてくれます。

これはミステリーに限った話ではありませんね。従って、私の聖書のおはなしも、自分に合った方法を見つけて作るしかありません。それは結局、続けることによつてしか見つかれないのかもしれないね。ああ、またすぐ週末がやってくる……(はくた)

受洗50年を迎える伝説の棋士・加藤一二三が、体験談を交えて信仰を語る

# だから私は、神を信じる

## 加藤一二三



「キリスト教の信仰によって、私の人生や将棋は変わった」  
—2020年のクリスマスに受洗50年を迎える加藤一二三氏。聖書やキリスト教の真髄、巡礼や聖人について、子育てをする人へのアドバイス、愛や苦しみの意味などが「信仰者・加藤一二三」によって丁寧に語られる。



2020年9月25日刊行予定

◆四六判 並製・116頁・1,320円

## 押田成人著作選集 3 いのちの流れの ひびきあい

地下流の靈性

宮本久雄／石井智恵美 編

最終回  
配本

「高森草庵」で思索と労働の日々を送った押田成人神父の著作選集、最終巻。晩年にかけて醸成されてゆくなかで著されたエッセイを収録。

◆A5判 上製・260頁・2,970円



2020年9月25日刊行予定

## こちら 陽だまり荘

介護  
マンガ



介護士 美奈子の日誌

ないとうかずえ

「信徒の友」連載漫画を単行本化。介護士・美奈子の日常を通して、デイサービスと特養での介護「あるある話」を悲喜こもごも描く介護マンガ。

◆A5判 並製・120頁・1,540円



2020年9月24日刊行予定

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇二〇年一〇月一日発行（毎月一回一冊発行）  
本のひろば 第七五四号 二〇二〇年一〇月号

発行所 〒112-8524 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三-二三六〇-六五二〇 振替〇一七〇-五一一六七九  
発行人 金子和人 編集人 土肥研一 印刷所 ㈱平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三-三二六〇-五六七〇

定価七八円（税抜七一元） 年63円  
一年分一三〇〇円（送料共）

9月の新刊（価格表示は税抜）

ついに  
完成!

# 日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。  
日本キリスト教史研究の里程碑ともいえるべき必須の基礎文献。 呈・内容見本

●B5判・函入・984頁本体45,000円 ◆特別定価 本体42,000円（2020年11月30日まで）



好評既刊



## 悪と神の正義

N・T・ライト著 本多峰子訳

悪と不条理がはびこるこの世界で、神は何をしておられるのか？  
十字架による神の最終的勝利と神の王国を見据え、  
今ここに生きるキリスト者を新しい使命へと導く画  
期的な書。現代を代表する新約聖書学者による、新し  
い神義論の試み。 ●四六判・216頁・本体2,000円

好評既刊



## わたしたちはどんな死に方を望むのか？

M・デ・リッター著 島田宗洋/W・R・アーデ訳

高度先進医療時代における新たな死の文化的提言  
30年以上の医師としてのキャリアの中で出合った25  
名の具体的な患者の実例から、現代の救命延命型の  
医療体制における医療行為の負の面と矛盾点を説  
得的に語り、「望ましい死への援助を提案する」。  
●四六判・464頁・本体2,800円



## 苦しむと悪を神学する 神義論入門

M・S・M・スコット著 加納和寛訳

神が善であり全能であるなら、

なぜ神は悪を許しているのか？

古代から現代までの神義論の主要なモデル  
とモチーフを紹介。苦難の問題を考える道  
筋を学ぶ最良の手引き。自然災害や病など、  
不条理な経験を重ねる今だからこそ読みた  
い一冊！  
●四六判・並製・276頁・本体2,700円

## わたしたちは どんな医療が欲しいのか？

人間中心医療を取り戻すための提言とその理由

M・デ・リッター著 島田宗洋/W・R・アーデ訳

患者への共感よりも経済効率が優先される

診療現場の惨状にメスを入れる！

様々な背景をもつ人が運びこまれるペ  
ルリンの救急医療センター。現場で35年のキャ  
リアを重ねたドイツ人医師が発信する  
〈現代医療の問題点と解決の道〉。  
●四六判・上製・344頁・本体2,600円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)  
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！

